



平成29年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月8日

上場会社名 株式会社CSSホールディングス
 コード番号 2304 URL <http://www.css-holdings.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 林田 喜一郎
 (氏名) 岩見 元志
 TEL 03-6661-7840

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年9月期第3四半期の連結業績(平成28年10月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年9月期第3四半期	12,739	8.5	225	52.3	245	45.2	148	54.1
28年9月期第3四半期	13,916	7.2	472	68.6	447	67.6	324	44.8

(注) 包括利益 29年9月期第3四半期 199百万円 (32.7%) 28年9月期第3四半期 296百万円 (10.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年9月期第3四半期	29.52	29.26
28年9月期第3四半期	64.26	63.67

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年9月期第3四半期	7,191	2,704	37.6
28年9月期	6,705	2,556	38.1

(参考) 自己資本 29年9月期第3四半期 2,704百万円 28年9月期 2,556百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年9月期		0.00		10.00	10.00
29年9月期		0.00			
29年9月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年9月期の連結業績予想(平成28年10月1日～平成29年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,820	7.2	207	53.7	229	54.5	142	69.4	28.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年9月期3Q	5,285,600 株	28年9月期	5,285,600 株
期末自己株式数	29年9月期3Q	240,865 株	28年9月期	240,865 株
期中平均株式数(四半期累計)	29年9月期3Q	5,044,735 株	28年9月期3Q	5,044,735 株

期末自己株式数には、株式給付信託が保有する当社株式(平成29年9月期3Q 155,500株)が含まれております。また、当該信託が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(平成29年9月期3Q 155,500株)

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

現時点における当期の連結業績予想は、平成29年6月26日に公表したものと変更はありません。(当該業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。そのため、事業環境をはじめとする様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。)

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、底堅い内外需を背景として、景気回復基調が継続しています。先行きについても、引き続き穏やかな景気回復は続くものと思われませんが、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。

観光庁の発表によれば、4月から6月における訪日外国人の消費額は前年に比べ13%増加しており、当社グループの顧客であるホテル及び商業施設においては、収益を底上げする追い風となっています。

金融機関については、マイナス金利の影響で減益を余儀なくされています。高齢者福祉施設については、引き続き市場は拡大傾向にありますが、競合他社との価格競争や差別化が難しいなど、厳しい状況が続いています。

このような環境にあって当社グループは、ホテルを主要顧客とするスチュワード事業及び総合給食事業については堅調に推移いたしました。映像・音響・放送機器の販売及び施工事業においては、金融機関の設備投資の先送りや昨年までの特定需要の反動等により収益が伸び悩みました。また、食材販売事業については、大型の受託給食の失注や原価の高止まりなどにより営業損失の計上となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における連結売上高は12,739百万円（前年同期比8.5%減）、連結営業利益は225百万円（前年同期比52.3%減）、連結経常利益は245百万円（前年同期比45.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は148百万円（前年同期比54.1%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績の業況は以下のとおりです。

①スチュワード管理事業 株式会社セントラルサービスシステム(C S S)

当事業は、ホテル・レストランにおける食器洗浄業務を中心としたスチュワード管理を全国展開している当社グループの中核事業です。

当第3四半期連結累計期間においては、既存事業所における売上が安定して推移いたしました。また、2件の新規案件がスタートしたことに加え、契約更改において適切な価格設定ができたことや臨時業務の獲得等により前年を上回る売上となりました。

費用面においては、原価・人件費が十分にコントロールされたことやその他経費の執行も適正に行われたことで、利益も前年を上回って拡大しました。

この結果、売上高4,972百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益は237百万円（前年同期比28.7%増）となりました。

②総合給食事業 株式会社センダン(S D N)

当事業は、従業員食堂を中心にレストラン運営などフードサービスに係る総合給食事業を全国展開しています。

当第3四半期連結累計期間においては、既存事業所の売上確保に努めたことに加え、新規大型事業所の稼働、2件のホテルの朝食受託の開始、季節営業案件のスタート等により順調に売上を伸ばしたことで、前年を上回る結果となりました。

費用面においては、新規事業所の開業に伴うイニシャルコストの負担増、原価・人件費が売上の増加率を上回って推移したことなどから、利益については前年には届きませんでした。

この結果、売上高1,847百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益は29百万円（前年同期比35.5%減）となりました。

③映像・音響機器等販売施工事業 東洋メディアリンクス株式会社(T M L)

当事業は、音楽関連事業とセキュリティー・システム、映像・音響システムの設計施工事業を幅広い顧客向けに展開しております。

当第3四半期連結累計期間においては、商業施設を中心とする法人営業部門や顧客開拓を推進した関西営業所は堅調に推移し、「香り」事業についても着実に契約数を伸ばしたものの、金融営業部門における一部大手金融機関の設備投資抑制や開発営業部門における官公庁への入札件名の逸機、ホテルの設備投資延期等により、売上は前年を下回りました。

費用面においては、可能な限り抑制に努めましたが、営業損失の計上となりました。

この結果、売上高は1,824百万円（前年同期比19.7%減）、営業損失は10百万円（前年同期は営業利益65百万円）となりました。

④音響・放送機器等販売事業 音響特機株式会社(OTK)

当事業は、大型スピーカーやアンプ等のプロフェッショナル向け音響機器の輸入および販売事業を展開しております。

当第3四半期連結累計期間においては、各種展示会への出展、海外ブランド幹部の来日に合わせた営業展開、商品開発幹部の来日に合わせた勉強会、その他技術研修等を実施致しました。しかしながら売上については、全体の件名数は一定程度確保できたものの、大型件名が減少していることで、前年を下回ることとなりました。

費用面においては、原価は抑制されており、売上総利益率も前年以上となっているものの、売上高の減少により利益額が低下していることに加え、固定費負担の影響もあり、利益については前年を割り込みました。

この結果、売上高は2,014百万円（前年同期比24.3%減）、営業利益は1百万円（前年同期比99.0%減）となりました。

⑤食材販売事業 ヤマト食品株式会社(YMT)

当事業は、SDNに加え、当社グループとしてフードサービスの更なる拡大へ向け、高齢者福祉施設、建設会社現場事務所を中心に献立付食材販売並びに受託給食を展開しております。

当第3四半期連結累計期間においては、大阪営業所の本格稼働を図り、新たに関西地区での19件の新規案件がスタート致しました。新規受注も失注を上回る状況ではあるものの、建設現場での大型の受託給食が終了した影響は大きく、全体での売上は販売目標に届かず前年を下回ることとなりました。

費用面においては、人件費、その他経費の抑制に努めましたが、原価の高止まりについては、解消するに至らず、営業損失の計上となりました。

この結果、売上高は2,094百万円（前年同期比11.9%減）、営業損失は56百万円（前年同期は営業利益62百万円）となりました。

⑥総務・人事・経理管理事業 株式会社CSSビジネスサポート(CBS)

当事業は、総務・人事・経理業務をグループ各社より受託しております。

当第3四半期連結累計期間においては、引き続きグループ各社の管理業務を受託してまいりました。CSS、SDNに係わる採用実務については、2018年の新卒採用をスタートさせたものの、売り手市場の煽りを受け、不芳な状況となっていることから、定員確保へ向け継続的な取組みとしています。また、IT部門においては、TMLでのサーバー入れ替えに伴う支援及びCSS、SDN、HLDにおける本社PCのリプレースを完了いたしました。

この結果、業績は概ね計画通り推移いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期における総資産は、前連結会計年度に対し、486百万円の増加により7,191百万円となりました。その主因は、現金及び預金の増加384百万円、売上債権の減少34百万円、有形固定資産の減少22百万円、無形固定資産の増加42百万円、投資有価証券の増加90百万円などによるものであります。

負債の部は、前連結会計年度に対し、338百万円の増加により4,487百万円となりました。その主因は、短期借入金の増加650百万円、長期借入金の減少195百万円などによるものであります。

純資産は、147百万円増加し、2,704百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点における当期の連結業績予想は、平成29年6月26日に公表したのから変更はありません。（当該業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。そのため、事業環境をはじめとする様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。）

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,298,250	1,683,241
受取手形及び売掛金	1,917,584	1,883,012
商品及び製品	345,198	348,010
仕掛品	38,156	47,342
原材料及び貯蔵品	40,760	38,023
繰延税金資産	114,530	82,352
その他	100,080	152,117
貸倒引当金	△6,080	△4,204
流動資産合計	3,848,481	4,229,895
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,017,986	1,002,700
減価償却累計額	△515,039	△519,950
建物及び構築物(純額)	502,946	482,750
土地	1,235,238	1,233,838
その他	146,699	156,534
減価償却累計額	△110,450	△121,282
その他(純額)	36,248	35,251
有形固定資産合計	1,774,434	1,751,840
無形固定資産		
のれん	123,775	116,844
その他	56,591	105,816
無形固定資産合計	180,366	222,661
投資その他の資産		
投資有価証券	501,753	592,329
その他	400,260	394,784
投資その他の資産合計	902,013	987,113
固定資産合計	2,856,814	2,961,615
資産合計	6,705,296	7,191,511

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	576,733	552,061
短期借入金	650,000	1,300,000
1年内返済予定の長期借入金	260,150	232,070
未払金	751,687	712,472
未払法人税等	117,719	14,592
賞与引当金	175,654	90,960
その他	229,778	355,807
流動負債合計	2,761,723	3,257,963
固定負債		
長期借入金	1,080,430	885,000
繰延税金負債	679	4,305
退職給付に係る負債	238,789	259,565
株式給付引当金	16,214	16,214
長期未払金	22,544	22,544
資産除去債務	9,129	9,271
その他	19,421	32,566
固定負債合計	1,387,209	1,229,468
負債合計	4,148,932	4,487,431
純資産の部		
株主資本		
資本金	393,562	393,562
資本剰余金	279,306	279,306
利益剰余金	1,917,198	2,014,135
自己株式	△99,799	△99,799
株主資本合計	2,490,268	2,587,205
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	66,094	116,874
その他の包括利益累計額合計	66,094	116,874
純資産合計	2,556,363	2,704,079
負債純資産合計	6,705,296	7,191,511

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
売上高	13,916,783	12,739,157
売上原価	11,394,838	10,497,424
売上総利益	2,521,944	2,241,733
販売費及び一般管理費	2,049,329	2,016,313
営業利益	472,614	225,420
営業外収益		
受取利息	1,193	976
受取配当金	5,133	6,041
受取賃貸料	12,581	13,342
投資事業組合運用益	—	1,312
その他	33,014	30,404
営業外収益合計	51,922	52,078
営業外費用		
支払利息	33,359	25,013
支払手数料	38,394	2,407
為替差損	36	3,252
投資事業組合運用損	717	—
その他	4,977	1,772
営業外費用合計	77,486	32,446
経常利益	447,051	245,052
特別利益		
投資有価証券売却益	33	—
固定資産売却益	—	1,398
特別利益合計	33	1,398
特別損失		
固定資産除却損	43	3,903
投資有価証券評価損	1,979	—
損害賠償金	6,972	—
特別損失合計	8,995	3,903
税金等調整前四半期純利益	438,088	242,547
法人税、住民税及び事業税	134,466	70,924
法人税等調整額	△20,529	22,683
法人税等合計	113,936	93,608
四半期純利益	324,151	148,938
親会社株主に帰属する四半期純利益	324,151	148,938

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益	324,151	148,938
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△27,393	50,779
その他の包括利益合計	△27,393	50,779
四半期包括利益	296,757	199,718
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	296,757	199,718

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年10月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	スチュワード 管理事業	総合給食事業	音響・放送機 器等販売事業	映像・音響機 器等販売施 工事業	食材販売事業	計
売上高						
(1)外部顧客に 対する売上高	4,848,002	1,799,981	2,600,955	2,269,366	2,376,229	13,894,534
(2)セグメント 間の内部売上高 又は振替高	900	1,248	58,947	2,121	—	63,216
計	4,848,902	1,801,229	2,659,902	2,271,487	2,376,229	13,957,751
セグメント利益	184,734	46,236	103,314	65,953	62,747	462,987

(単位:千円)

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
(1)外部顧客に 対する売上高	22,248	13,916,783	—	13,916,783
(2)セグメント 間の内部売上高 又は振替高	194,119	257,335	△257,335	—
計	216,367	14,174,119	△257,335	13,916,783
セグメント利益	5,676	468,663	3,950	472,614

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、総務・人事・経理管理事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額3,950千円は、全社利益及びセグメント間取引消去等の額によるものであります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成28年10月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	スチュワード 管理事業	総合給食事業	音響・放送機 器等販売事業	映像・音響機 器等販売施 工事業	食材販売事業	計
売上高						
(1)外部顧客に 対する売上高	4,971,856	1,846,260	1,992,213	1,811,331	2,094,215	12,715,877
(2)セグメント 間の内部売上高 又は振替高	900	1,326	22,575	12,770	—	37,572
計	4,972,756	1,847,586	2,014,789	1,824,101	2,094,215	12,753,450
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	237,674	29,811	1,009	△10,052	△56,575	201,867

(単位:千円)

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
(1)外部顧客に 対する売上高	23,280	12,739,157	—	12,739,157
(2)セグメント 間の内部売上高 又は振替高	208,366	245,938	△245,938	—
計	231,646	12,985,096	△245,938	12,739,157
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	16,623	218,490	6,929	225,420

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、総務・人事・経理管理事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額6,929千円は、全社利益及びセグメント間取引消去等の額によるものであります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。